

R4年度 岡山県内の「住宅の温暖化防止対策(断熱、省エネ等)」に関する
意識調査結果について(環境省補助事業活用)

1. 調査の背景

日本の住宅の省エネ性能や断熱・気密性能の水準は、他の先進国と比較しても高いとはいえ、必要以上に冷房や暖房を使用することとなりエネルギーの無駄となっている。世界で脱炭素化が進む中、各分野でエネルギーの消費を抑えることは日本にとっても重要な課題であり、技術開発も進んでいるものの、住宅の断熱については積極的な取り組みがなされているとはいえない。

今後、家庭部門の脱炭素化を進めるためには「住宅の断熱化」は重要な項目であり、家庭はもちろんのこと、それを後押しする自治体や企業の取り組みも加速させる必要がある。

そこで、今後の自治体や建築業界(特に中小企業)の脱炭素化に係る事業取組方針作成の一助となるデータを得るべく、岡山県や関連団体と連携し、県内の工務店を対象に「住宅の温暖化防止対策(断熱、省エネ等)」に関する意識調査を実施した。

2. 調査目的

- ・工務店が把握している断熱に関するニーズや自社が持っているシーズをアンケート調査により洗い出すこと
- ・本調査結果を関係者に提供することにより、県内における断熱住宅の推進(断熱講習会の題材、脱炭素に係る取組方針作成、県内工務店の脱炭素意識向上など)に繋げていくこと

3. 調査概要

(1) 調査方法

岡山県内の工務店約 200 社を対象に電子フォームを活用したアンケート調査を実施した。なお、アンケートは岡山県土木部建築指導課及び環境文化部新エネルギー・温暖化対策室の協力のもと実施した。

(2) 調査期間

2022年11月(アンケート送付)、11月末(回答締切)、12月～1月(集計、とりまとめ)

(3) 調査内容

別紙1(アンケート質問一覧)参照。

(4) 回答数

34件(回答率:約17%(34社/約200社))

4. 調査結果の概要と考察

※集計結果の詳細は別紙2(アンケート結果詳細)参照。

まず、本調査においてアンケートを配布した約200社のうち回答があったのは34件であり(回答率:約17%)、岡山県内の工務店の傾向を本調査のみで代表することは難しいということを前提とする。

その上で、今回の調査目的である県内工務店の“断熱に関するニーズやシーズ(商品の価値や強み)”について調査結果から考察し、今後の断熱住宅の普及推進のために必要な施策について整理を行った。

① 回答集団の傾向

- ・ 脱炭素や省エネに関する意識を持っている工務店の割合が9割弱
- ・ すでに事業サービスとして何らかの取り組みを実施している工務店の割合が7割程度(ZEHなど断熱住宅の建築や太陽光発電システムの販売、斡旋など)



- ◇ 比較的意識が高く、取り組みもしている工務店から回答が得られている
- ◇ 一方で、取り組みが実施できていない工務店も3割程度は見られており、そのような工務店への支援の必要性を、回答がなかった残りの工務店に当てはめて考察も行える

② 改正省エネ法への対応および断熱施工状況

- ・ 改正省エネ法について理解している工務店の割合が9割以上
- ・ 省エネ基準義務化に向けて、すでに準備に取り組んでいる工務店は約6割、これから取り組む予定は約2割、苦慮または取り組めていない工務店は約2割
- ・ 断熱性能では、ZEH以上の性能を意識している工務店が約3割、ZEH程度が約3割、残りは現行省エネ基準での施工や説明など



- ◇ 内容を理解していない工務店や取り組みに苦慮している工務店への支援として、研修会等を通じた断熱の重要性や取組方法を説明する機会を提供する
- ◇ また、ZEH以上の断熱施工の取り組みについての認知度向上や他の工務店への技術的な支援などの必要性も考えられる

③ 工務店が求めているニーズ

- ・ 省エネ基準適合義務化に向けて、公的な支援や助成、顧客への効果的な説明方法、コスト面について知りたいというニーズが多い
- ・ 8割以上の工務店が、断熱に関する顧客のニーズが高まっていると感じている



- ◇ 顧客からの断熱に関するニーズを感じている工務店は多く、それらに対応した断熱住宅を増やしていくためにも、公的な助成や支援を充実させていく必要がある
- ◇ そのような顧客に対し断熱設計施工について十分な説明ができるよう、また、断熱住宅の導入につながるよう、効果的な説明方法を研修等により学ぶ場を提供する

④ 工務店の持つ断熱技術や省エネ設備に関する強み
(別紙2(アンケート結果詳細)のとおり)



- ◇ 断熱工法や省エネ対応において優れた技術や実績を持つ工務店があり、それらの情報を公的に評価し、エンドユーザーに届けられる仕組みを構築する必要がある

⑤ 断熱リフォームにかかる補助制度について
(別紙2(アンケート結果詳細)のとおり)



- ◇ 多くの工務店が国や地方自治体の補助制度を知っており、使ったこともあるという回答も比較的多く得られた
- ◇ 一方で、補助制度を知らない工務店も少数存在することから、研修等により補助制度の周知を図ることが今後求められる
- ◇ 補助制度への要望としては、補助金の充実に関する要望が7件と最も多く、次いで申請手続きの簡素化に関する要望が2件、「気密」必要性啓発に関する要望が1件であった
- ◇ 断熱改修について必要性を感じているものの費用面で足踏みする消費者が多い背景をあらわしていると考えられる。また、申請手続きの簡素化に関する要望については、補助金申請の手続きが複雑であるため、たとえ今後補助金が充実されたとしても担当者の業務の圧迫につながり、十分なサービスを提供することができなくなる懸念があることも示唆され、行政の柔軟な対応も求められる

【まとめ】

新築着工数やリフォーム数別による取組状況等の精査を行った結果では、得られた回答数も限られており、施工実績規模の大きさによる明確な違いは確認されなかった。本調査では、多くの工務店が、脱炭素・省エネに対し高い意識を持っており、さらに断熱に関する取り組みにも積極的に着手している傾向が見て取れた。ただし、脱炭素社会に向けて“住宅の断熱化”を今後さらに進めていくためには、まだ取り組みが十分でない工務店に対して情報や技術的な研修機会を提供することが必要だと考える。また、意識を持って取り組みを進めている工務店に対しては、事例発表の場の提供や行政の公的な支援も含めた社会全体での後押しも必要である。

別紙1(アンケート質問一覧)

【属性】

Q1.近年の御社の新築住宅着工数 (例：年間約〇件)	自由記述
----------------------------	------

Q2.近年の御社の住宅リフォーム着工数 (例：年間約〇件)	自由記述
-------------------------------	------

Q3.御社の営業エリア、地域 (いずれか一つ)
A3-1.全国
A3-2.西日本
A3-3.中四国
A3-4.中国
A3-5.岡山県内
A3-6.その他

【脱炭素、省エネについて】

Q4.御社の「脱炭素、省エネ」に関する意識及び取組状況(自分たちのCO2排出を減らす取組)を教えてください。(いずれか一つ)
--

Q4-1.脱炭素、省エネを意識しており、自社での節電等を実施している
Q4-2.脱炭素、省エネを意識しており、今後取り組みたいと考えている
Q4-3.脱炭素、省エネは気になるが、取り組み方がわからない
Q4-4.脱炭素、省エネはあまり意識していない
Q4-5.脱炭素、省エネに取り組む必要性を感じていない
Q4-6.その他

Q5.「脱炭素、省エネ」に関して 事業サービスを通じた取組を行っていますか。 (複数回答可)

A5-1.ZEHなど断熱住宅の建築を行っている
A5-2.太陽光発電システムの販売、斡旋等を行っている
A5-3.蓄電池の販売、斡旋等を行っている
A5-4.現在行っていないが、今後行っていきたい
A5-5.行っておらず、今後も分からない
A5-6.その他

【省エネ基準の適合義務化について】

Q6.「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第69号）」により、2025年度以降、すべての新築の建物に断熱性能などの省エネ基準を満たすことが義務づけられます。この改正法の理解度について御社の状況に最も近いものをお選びください。（いずれか一つ）

A6-1.改正法の内容を理解しており、準備に取り組んでいる。

A6-2.改正法の内容を理解しており、今後取り組む予定である。

A6-3.改正法の内容を理解しているが、取組について苦慮している。

A6-4.改正法の内容を理解していない。

A6-5.改正法の内容を理解していない。

A6-6.その他

【断熱について】

Q7.御社の断熱設計施工に関する意識について教えてください。（いずれか一つ）

A7-1.ZEH以上の性能を意識して設計施工している

A7-2.ZEH程度を意識して設計施工している

A7-3.現行の省エネ基準を意識して設計施工している

A7-4.顧客に省エネ性能の説明はしている

A7-5.あまり意識していない

A7-6.その他

Q8.義務化される省エネ基準に適合する断熱設計施工に関する御社のニーズについて当てはまるものを教えてください。（複数回答可）

A8-1.脱炭素や省エネ、断熱について詳しく知らないため、勉強会やセミナー等、学ぶ機会がほしい

A8-2.省エネ性能、断熱基準などに適合するためのコストについて知りたい

A8-3.顧客への省エネ性能、断熱基準に関する効果的な説明方法が知りたい

A8-4.断熱についての工法に関する技術的な支援がほしい

A8-5.そもそも断熱を希望する顧客があまりいないため、そのニーズ発掘方法が知りたい

A8-6.他社（県内外）の断熱住宅施工事例が知りたい

A8-7.断熱住宅についての公的な支援、助成を充実してほしい

A8-8.公的な支援、助成の情報を提供してほしい

A8-9.省エネ性能の評価方法、計算方法が知りたい

A8-10.工務店の取り組みを公的に評価し、公表する仕組みを設けて欲しい

A8-11.その他

Q9.断熱設計施工に関するお客様からのニーズで最も近いものを教えてください。（いずれか一つ）	
A9-1.建築業界全体で顧客からの断熱に関するニーズが高まっていると感じている	
A9-2.業界はわからないが、自社では顧客からのニーズが高まっていると感じている	
A9-3.自社では顧客からのニーズをあまり感じていない	
A9-4.わからない	
A9-5.その他	

Q10.断熱について強みがあれば教えてください（工法、施工件数等）。	自由記述
------------------------------------	------

Q11.省エネ設備に関する強みがあれば教えてください(太陽光発電システム、PV、蓄電池等)。	自由記述
--	------

Q12.断熱に関するセミナーに参加するとしたらどのような内容をお聞きになりたいですか？（複数回答可）	
A12-1.断熱住宅の基礎知識	
A12-2.断熱材、断熱工法等の技術面の情報	
A12-3.気密施工の必要性、技術	
A12-4.補助金情報	
A12-5.顧客への効果的な伝え方	
A12-6.住宅を含む建築物の断熱化が求められる背景	
A12-7.世界と日本の断熱事情	
A12-8.断熱住宅のメリット・デメリット	
A12-9.断熱住宅を建てる場合のコスト（イニシャル、ランニング、回収期間）	
A12-10.費用対効果と快適性の高い断熱リフォーム	
A12-11.断熱住宅の安全性	
A12-12.先進事例（ex：鳥取県の健康省エネ住宅 NE-ST）	
A12-13.岡山県内の断熱住宅の普及率	
A12-14.断熱住宅のライフサイクルアセスメント（建てて終わり、ではなく住宅の解体、廃棄を見据えた資材・工法選定など）	
A12-15.住宅と SDGs	
A12-16.その他	

【断熱リフォームの補助について】

Q13.市町村が行っている家庭の省エネ支援事業等で、断熱リフォームの補助を受けたことがありますか？※いずれか一つ

ex)市町村の補助制度 <https://www.pref.okayama.jp/page/600712.html>

国の補助制度 <https://www.heco-hojo.jp/yR03/danref/competition.html>

<https://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/334815.pdf>

A13-1.市町村の補助制度を知っており、使ったこともある

A13-2.市町村の補助制度を知っているが、使ったことはない

A13-3.国の補助制度を知っており、使ったこともある

A13-4.国の補助制度を知っているが、使ったことはない

A13-5.補助制度を知らないし、使ったこともない

A13-6.わからない

Q14.断熱リフォームにかかる補助制度について、今後どのような内容の補助があると良いと思われますか？また、その他、行政に希望することはありますか？

自由記述

別紙2(アンケート結果詳細)

(1) 属性

アンケート回答のあった34件の内訳は、項目別(新築住宅着工件数、住宅リフォーム着工件数、営業エリア)で見るとそれぞれ以下のとおりであった。

○新築住宅着工件数(年間)

選択肢	0～5件	6～15件	16～25件	26件以上
回答件数	17	7	5	5

○住宅リフォーム着工件数(年間)

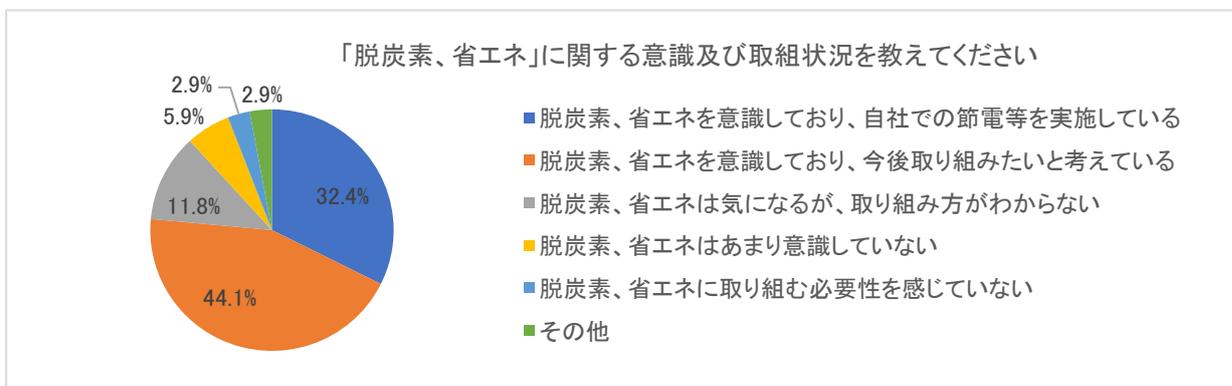
選択肢	0～5件	6～20件	21～50件	51～100件	101件以上
回答件数	17	9	5	1	2

○営業エリア

選択肢	全国	西日本	中四国	中国	岡山県内	その他
回答件数	0	0	1	5	26	2※

※その他:「会社から2時間以内の範囲(香川・広島・兵庫含む)」「倉敷市、総社市、岡山市等県南」

(2)「脱炭素、省エネ」に関する意識及び取組状況について



○「脱炭素、省エネ」に関する意識及び取組状況	件数(全体34件)
脱炭素、省エネを意識しており、自社での節電等を実施している	11
脱炭素、省エネを意識しており、今後取り組みたいと考えている	15
脱炭素、省エネは気になるが、取り組み方がわからない	4
脱炭素、省エネはあまり意識していない	2
脱炭素、省エネに取り組む必要性を感じていない	1
その他※	1

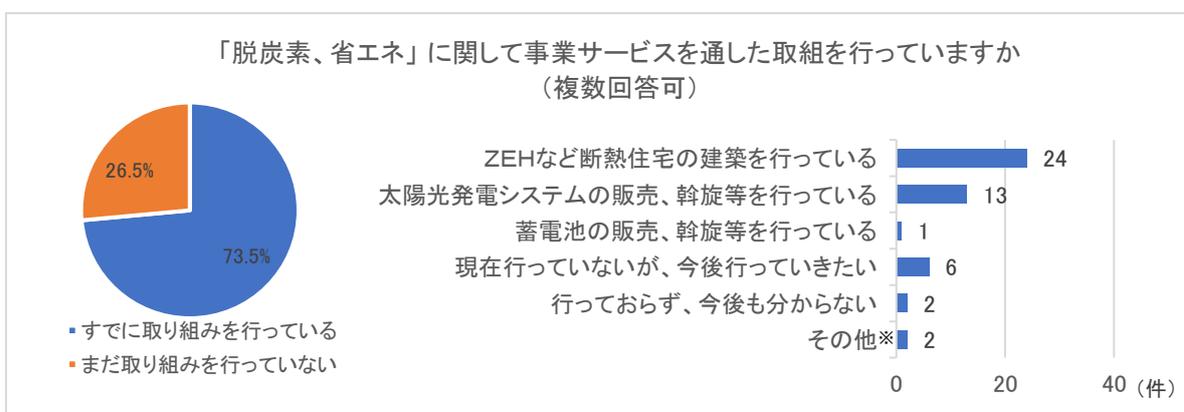
※その他:「伝統工法とのバランスが難しい」

脱炭素、省エネに関する意識については、約 88%の工務店が脱炭素、省エネについて「気になる」、あるいは「意識している」という結果であり、県内事業者の脱炭素に向けた意識の高さがうかがえた。脱炭素、省エネを「あまり意識していない」あるいは「取り組む必要性を感じていない」という回答も少数あった。

一方、脱炭素、省エネの取組については、「すでに節電等に取り組んでいる」「これから取り組みたい」との回答が多かったものの、「取組方法がわからない」という回答も少数あった。

今後、脱炭素、省エネについて取組方法を含めた支援や啓発が必要であると考えられる。

(3)「脱炭素、省エネ」に関する事業サービスを通じた取組について



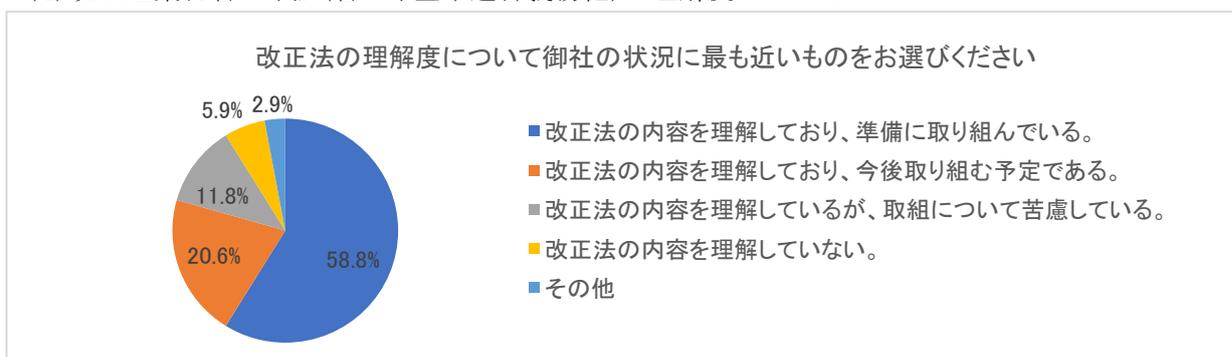
※その他:「サプライチェーンの変更など(県内資材の活用)」「未回答」

「脱炭素、省エネ」に関する事業サービスの取り組みについては、約 74%(25 社)がすでに行っており、行っていない事業者は約 26%(9 社)だった。

行っている事業サービスとして最も多かったのは「ZEH など断熱住宅の建築を行っている」であり(取り組みを行っている 25 社中 24 社)、次いで「太陽光発電システムの販売、斡旋等を行っている」であった(同じく、25 社中 13 社)。また、少数ではあるが「蓄電池の販売、斡旋を行っている」という回答もあった。

断熱住宅建築の取り組みが多い一方で、蓄電池の取り組みはまだ少なく、また事業サービスとして展開できていない工務店も一定数ある結果となった。

(4)改正建築物省エネ法(省エネ基準適合義務化)の理解度について



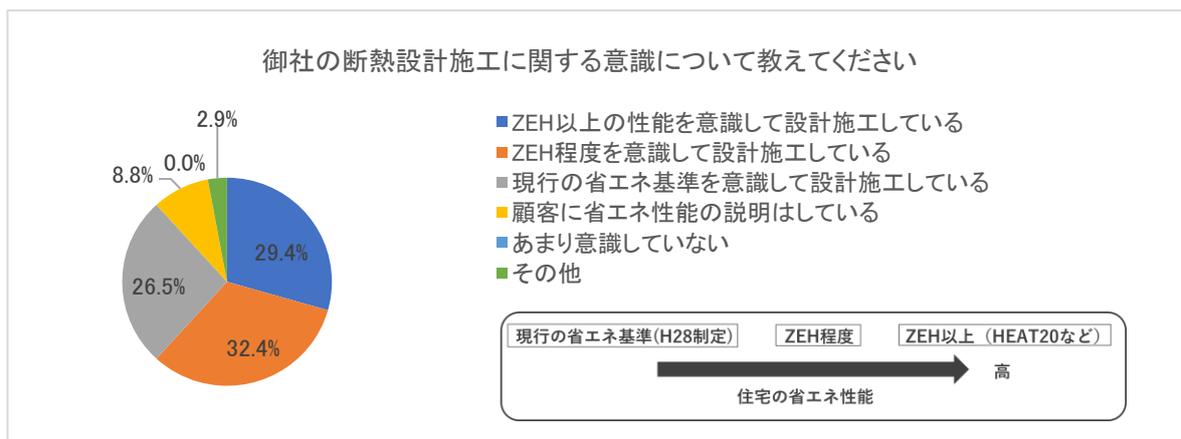
○改正建築物省エネ法の以下の内容の理解度 改正建築物省エネ法(令和4年6月17日公布)により、2025年度以降、すべての新築の建物に断熱性能などの省エネ基準を満たすことが義務づけられる。	件数 (全体 34 件)
改正法の内容を理解しており、準備に取り組んでいる。	20
改正法の内容を理解しており、今後取り組む予定である。	7
改正法の内容を理解しているが、取組について苦慮している。	4
改正法の内容を理解していない。	2
その他※	1

※その他:「もう既にやっている」

改正建築物省エネ法(省エネ基準適合義務化)については、90%以上の工務店が「理解している」と回答した。さらに、半数以上がすでに準備に取り組んでいると回答した。

ただ、その一方で、少数ではあるが内容を理解していない工務店もあり、そのような工務店に対する断熱の重要性や取組方法を説明する支援(研修会等)の必要性も見取れた。

(5)断熱設計施工に関する意識



○断熱設計施工に関する意識	件数(全体 34 件)
ZEH 以上の性能を意識して設計施工している	10
ZEH 程度を意識して設計施工している	11
現行の省エネ基準を意識して設計施工している	9
顧客に省エネ性能の説明はしている	3
あまり意識していない	0
その他※	1

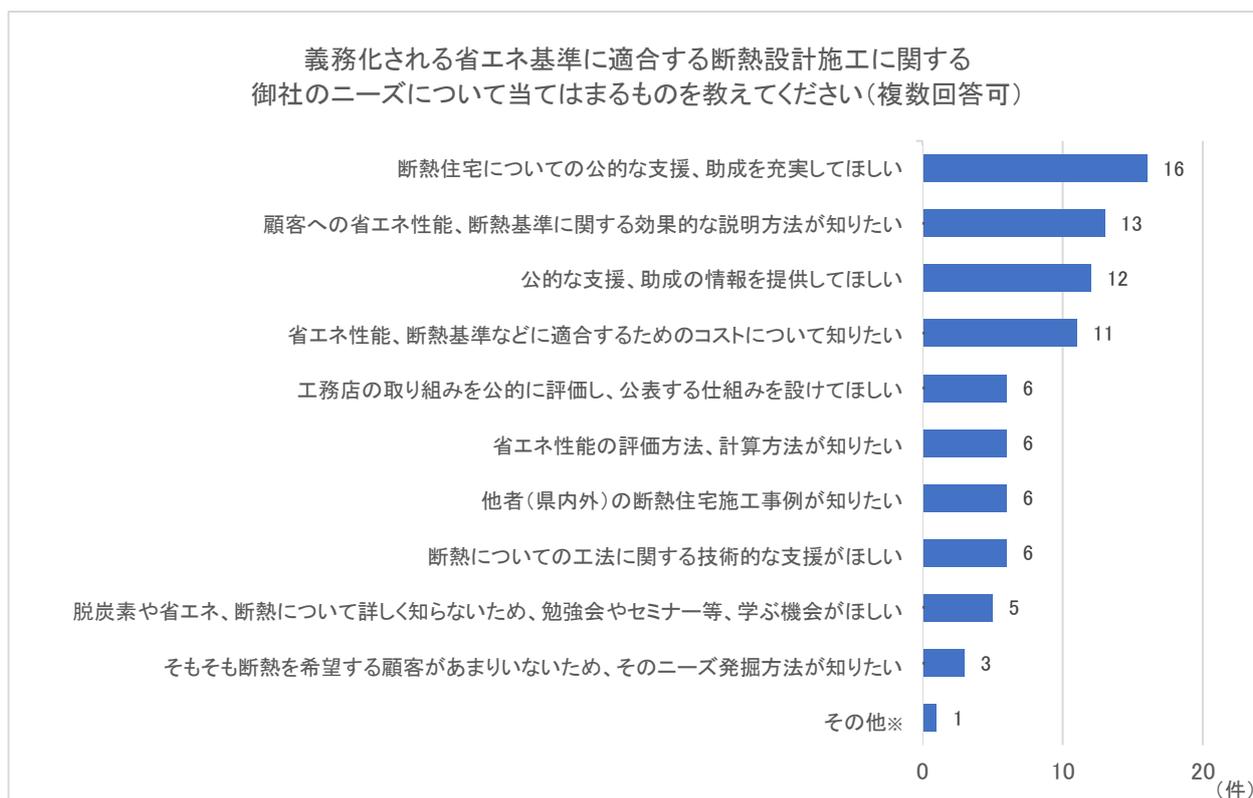
※その他:「意識はしているが、お客様の値段が合わないため、なかなかできない」

断熱設計施工については、「現行の省エネ基準」「ZEH 程度」「ZEH 以上」という回答が約 88%と高い割合を占めた。なかでも「ZEH 程度」「ZEH 以上」を意識して設計施工しているという回答は約 62%であり、現在の法律で定められている省エネ性能の上位等級で設計施工している工務店

が多いことがわかった。

今後については、これら ZEH 以上の断熱施工の取り組みについて認知度を上げるとともに、他の工務店への技術的な支援などの必要性も考えられる。

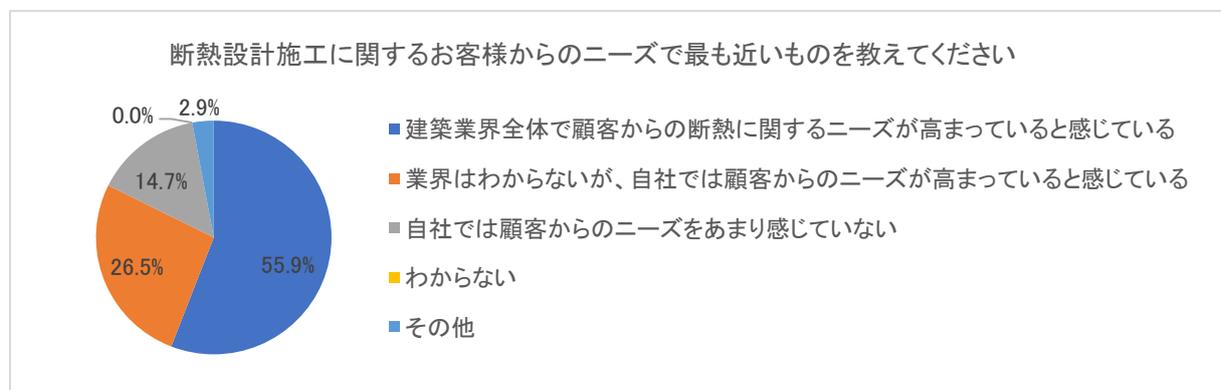
(6) 義務化される省エネ基準に適合する断熱設計施工に関するニーズ



※その他:「特になし」

省エネ基準適合義務化に向けて、公的な支援や助成、顧客への効果的な説明方法、コスト面について知りたいというニーズが多かった。

(7) 断熱設計施工に関するお客様からのニーズについて



○断熱設計施工に関するお客様からのニーズ	件数(全体 34 件)
建築業界全体で顧客からの断熱に関するニーズが高まっていると感じている	19
業界はわからないが、自社では顧客からのニーズが高まっていると感じている	9
自社では顧客からのニーズをあまり感じていない	5
わからない	0
その他※	1

※その他:「2割のお客様からのニーズがあるが、8割の方は違う所に興味関心がある(趣味、素材、面積、緑化等)」

多くの工務店が「断熱設計施工について顧客からのニーズが高まっていると感じている」と回答し、世間の断熱住宅への関心が向上していることがうかがえた。

(8)断熱に関する強みについて(工法、施工件数等)

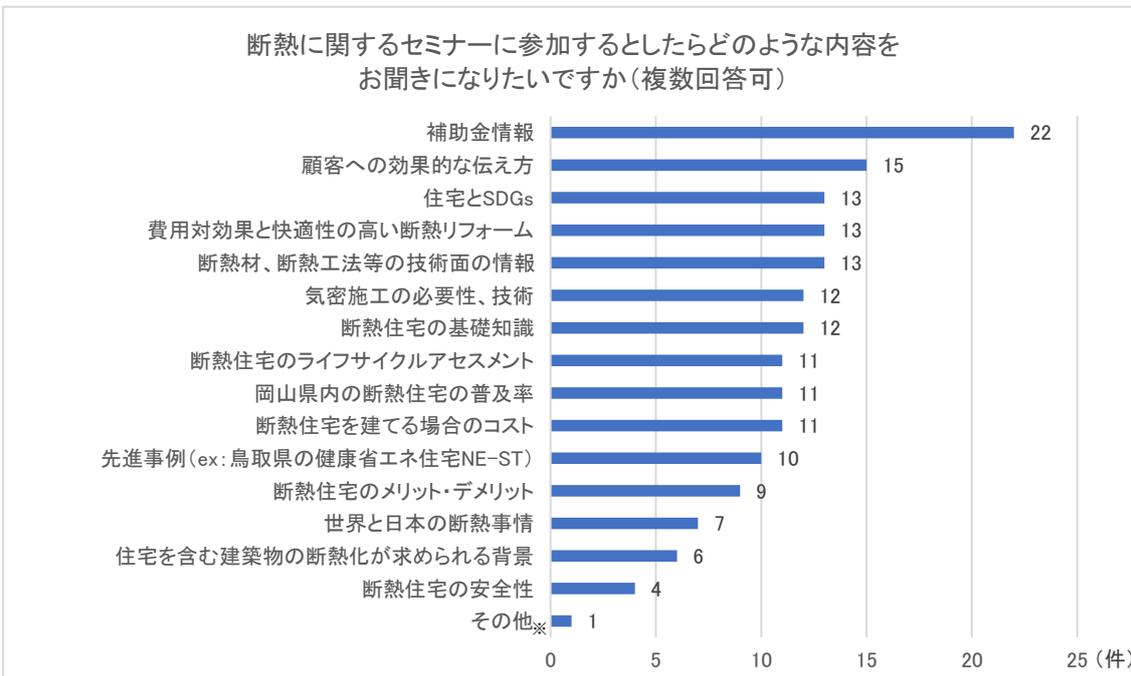
ウレタン吹付断熱 ソーラーサーキットの経験実績があるので近似値の施工はできます
新築ではUA 値 0.46 以下を意識
4 地域 G2 レベルが標準です(Ua値 0.34w/m ² k)Q 値 1.0~1.2w/m ² k程度、パッシブデザイン設計による、自然の恩恵を受けて室内を快適に。
SW 工法 断熱等級6~7
FP 断熱パネルを推奨しています。
断熱性能等級 5 を標準仕様 お客様のご希望で等級 6 の対応もしている。
基礎断熱・外断熱
UA値 0.38 標準仕様が8割 高性能 0.25 仕様が2割 全棟断熱工事前に気密測定 最近10棟平均C値 0.14 メンテナンス性を考慮して熱交換換気は使用しないで全棟3種換気を標準採用としている。 「太陽に素直な家」を実践している。 鳥取県のような省エネ住宅の仕組みを作っていただいて住宅の高断熱化を推進していただきたい。 東京都のように太陽光発電を標準採用するような仕組みを取り入れて欲しい。
アップルゲートセルロース断熱の断熱材は、米国新聞紙(パルプ)を原料とする紙製品を再利用して作られた細かな紙片状のものです。 専用の装置を使って、住宅の隅々まで施工します。セルロース断熱が普及しているアメリカで最高の断熱材として認められており、建築専門家の間でも高く評価されています。 年間24棟を目標に全棟施工へ取り組んでいます。火災保険加入時には半額以下の保険料で家計にも省エネとなっています。
Ua 値 0.6 以下、C 値 1.0 以下は目指している
出来るだけ断熱性能の良い断熱材、サッシを使用するように勧めている。
土壁外断熱
スーパーウォール工法

全棟気密測定実施
ウレタンフォーム吹付を採用(標準:壁 75 mm 屋根 160 mm)床はフクフォームエコ 80 mm
施主要望に応じて仕様 UP

(9)省エネ設備に関する強みについて(太陽光発電システム、PV、蓄電池等)

基本は ZEH 仕様
太陽光発電システムは、LIXIL テブコススマートパートナーズ建て得を使用。
太陽光(LIXIL 建て得)
太陽光
標準にはしていないが、要望には対応している。
興味のある方には OM ソーラーを勧めている
パッシブソーラー 太陽熱床暖房 蓄熱土間(蓄熱床暖房)
<p>自社がパナソニック太陽光代理店で屋根瓦工事と同時施工のため無駄なく太陽光パネルが設置できる。日射取得エネルギー、日射遮蔽を計算して窓の大きさと庇の長さを選定したパッシブ設計がなされている。</p> <p>一般住宅事業者の意見を大いに取り入れて頂き「ロハスな暮らし」が広がってもらいたいと願っています。</p>
太陽光発電システム
<p>太陽光発電システムや薪ストーブは設置対応会社として17年目となります。早くから省エネ設備に関心があり自社はもとよりお客様にも勧めて参りました。(薪ストーブや暖炉の燃料である薪は、新たな二酸化炭素を放出することはありません。薪を燃やすことで排出される二酸化炭素は、樹木が成長過程で吸収する量を超えることがないからです。しかも、間伐材や建築端材を再利用することで、山の環境維持にもつながります。再生可能かつ新たな二酸化炭素を排出しない薪ストーブ・暖炉は、環境問題に敏感な今の時代にふさわしいクリーンエネルギーなのです。)HP よりこのように関心を持っていただくようご案内しています。</p>
太陽光だけでなく、今後は蓄電池も取り入れたい
太陽光発電
要望に応じて採用。

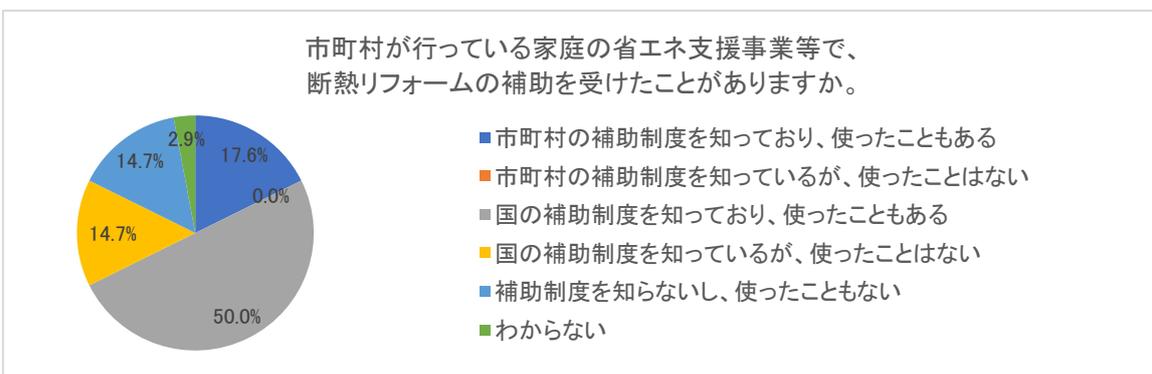
(10) 断熱に関するセミナーに求める内容



※その他:「リフォームの断熱方法の事例、床壁天井などの施工方法の解説」

(6)の結果と傾向が似ており、補助金情報や顧客への効果的な伝え方について知りたいという回答が多く得られた。また、「住宅とSDGs」が費用対効果や技術面の情報と並んで上位に入っており、住宅建築業界でもSDGsへの関心が高いという傾向が見て取れた。

(11) 断熱リフォームに係る補助制度について



○断熱リフォームの補助金の活用の有無(市町村が行っている家庭の省エネ支援事業等)	件数(全体 34 件)
市町村の補助制度を知っており、使ったこともある	6
市町村の補助制度を知っているが、使ったことはない	0
国の補助制度を知っており、使ったこともある	17
国の補助制度を知っているが、使ったことはない	5
補助制度を知らないし、使ったこともない	5
わからない	1

多くの工務店が国や地方自治体の補助制度を知っており、使ったこともあるという回答も比較的多かった。補助制度を知らない工務店も少数存在することから、研修等により補助制度の周知を図ることが今後求められる。

(12) 断熱リフォームに係る補助制度についての要望及び行政に希望すること

申請等がわかりやすく、簡単なものにしてほしい。他の業務に支障が出たりしたら、困るため。
補助金の枠の拡大、補助金額の増額。
改修内容に応じた補助金率 高い基準のもののみ補助するのであれば費用面で採用できない部分もある。
部分断熱などの少量でも使える補助金。
充填断熱材入れ替えでは相当額の費用負担となり普及にはそれなりの補助金が必要。
各お部屋の面積ごとに活用できる部分補助金。
手続きの簡素化を望む。
断熱改修は結構な費用になるので補助金を増やしてほしいです。
とにかく補助金が出るならなんでもありがたい。
断熱と気密は掛け算であり、断熱ばかりではなく「気密」の重要性を広く周知させて頂きたい。

補助金の充実に関する要望が 7 件と最も多く、次いで申請手続きの簡素化に関する要望が 2 件、「気密」必要性啓発に関する要望が 1 件であった。このように、補助金充実に関する要望が多いということは、断熱について必要性を感じているものの費用面で足踏みする消費者が多い背景をあらわしていると考えられる。また、申請手続きの簡素化に関する要望については、補助金申請の手続きが複雑であるため、たとえ今後補助金が充実されたとしても担当者の業務の圧迫につながり、十分なサービスを提供することができなくなる懸念があることも示唆された。

施工実績規模の大きさによる分類

御社の営業エリア、地域	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
全国	0	0	0	0	0	0	0	0
西日本	0	0	0	0	0	0	0	0
中四国	0	0	0	0	1	0	0	0
中国	4	1	0	0	0	0	4	0
岡山県内	13	6	4	4	4	16	2	6
その他	0	0	1	0	0	1	0	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3

「脱炭素、省エネ」に関する意識及び取組状況	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
脱炭素、省エネを意識しており、自社での節電等を実施している	2	3	5	1	7	0	3	1
脱炭素、省エネを意識しており、今後取り組みたいと考えている	9	3	0	3	7	3	3	2
脱炭素、省エネは気になるが、取り組み方がわからない	3	0	0	1	1	1	2	0
脱炭素、省エネはあまり意識していない	2	0	0	0	1	1	0	0
脱炭素、省エネに取り組む必要性を感じていない	1	0	0	0	1	0	0	0
その他	0	1	0	0	0	1	0	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3

「脱炭素、省エネ」に関して事業サービスを通じた取組を行っていますか ※複数回答	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
ZEHなど断熱住宅の建築を行っている	11	4	5	4	11	3	7	3
太陽光発電システムの販売、斡旋等を行っている	7	0	4	2	5	4	3	1
蓄電池の販売、斡旋等を行っている	0	0	1	0	1	0	0	0
現在行っていないが、今後行っていきたい	3	1	0	2	4	1	1	0
行っておらず、今後も分らない	1	1	0	0	1	1	0	0
その他	1	0	0	0	1	0	0	0
合計	23	6	10	8	23	9	11	4

改正法の理解度について御社の状況に最も近いものをお選びください。	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
改正法の内容を理解しており、準備に取り組んでいる。	8	4	4	4	11	1	5	3
改正法の内容を理解しており、今後取り組む予定である。	5	1	0	1	2	3	2	0
改正法の内容を理解しているが、取組について苦慮している。	2	2	0	0	3	1	0	0
改正法の内容を理解していない。	2	0	0	0	0	1	1	0
その他	0	0	1	0	1	0	0	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3

御社の断熱設計施工に関する意識について教えてください。	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
ZEH以上の性能を意識して設計施工している	3	2	5	0	5	1	3	1
ZEH程度を意識して設計施工している	6	2	0	3	5	1	3	2
現行の省エネ基準を意識して設計施工している	5	3	0	1	5	3	1	0
顧客に省エネ性能の説明はしている	2	0	0	1	2	1	0	0
あまり意識していない	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	0	1	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3

断熱設計施工に関するお客様からのニーズで最も近いものを教えてください。	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
建築業界全体で顧客からの断熱に関するニーズが高まっていると感じている	7	4	5	3	13	0	4	2
業界はわからないが、自社では顧客からのニーズが高まっていると感じている	6	3	0	0	2	4	2	1
自社では顧客からのニーズをあまり感じていない	4	0	0	1	1	2	2	0
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	1	0	0	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3

断熱に関するセミナーに参加するとしたらどのような内容をお聞きになりたいですか？ ※複数回答	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
断熱住宅の基礎知識	7	3	1	1	7	2	2	1
断熱材、断熱工法等の技術面の情報	7	5	0	1	6	3	3	1
気密施工の必要性、技術	4	6	1	1	6	2	3	1
補助金情報	11	6	3	2	12	4	4	2
顧客への効果的な伝え方	9	1	1	4	6	3	5	1
住宅を含む建築物の断熱化が求められる背景	3	1	1	1	4	0	1	1
世界と日本の断熱事情	4	2	1	0	6	1	0	0
断熱住宅のメリット・デメリット	5	1	1	2	4	2	2	1
断熱住宅を建てる場合のコスト（イニシャル、ランニング、回収期間）	4	2	2	3	5	2	3	1
費用対効果と快適性の高い断熱リフォーム	6	3	2	2	6	4	2	1
断熱住宅の安全性	2	1	1	0	3	0	1	0
先進事例（ex：鳥取県の健康省エネ住宅NE-ST）	3	2	4	1	8	0	2	0
岡山県内の断熱住宅の普及率	2	4	4	1	7	0	3	1
断熱住宅のライフサイクルアセスメント（建てて終わり、ではなく住宅の解体、廃棄を見据えた資材・工法選定など）	3	3	3	2	7	1	2	1
住宅とSDGs	5	3	4	1	8	0	3	2
その他	0	1	0	0	0	1	0	0
合計	75	44	29	22	95	25	36	14

義務化される省エネ基準に適合する断熱設計施工に関する御社のニーズについて当てはまるものを教えてください。 ※複数回答	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
脱炭素や省エネ、断熱について詳しく知らないため、勉強会やセミナー等、学ぶ機会がほしい	4	0	1	0	3	1	1	0
省エネ性能、断熱基準などに適合するためのコストについて知りたい	4	4	1	2	6	1	4	0
顧客への省エネ性能、断熱基準に関する効果的な説明方法が知りたい	8	2	2	1	8	2	3	0
断熱についての工法に関する技術的な支援がほしい	6	1	0	0	4	1	1	1
そもそも断熱を希望する顧客があまりいないため、そのニーズ発掘方法が知りたい	1	1	0	1	1	1	1	0
他社（県内外）の断熱住宅施工事例が知りたい	1	2	1	2	4	1	1	0
断熱住宅についての公的な支援、助成を充実してほしい	7	3	4	2	9	2	3	2
公的な支援、助成の情報を提供してほしい	3	4	3	2	9	0	2	1
省エネ性能の評価方法、計算方法が知りたい	4	1	1	0	3	1	2	0
工務店の取り組みを公的に評価し、公表する仕組みを設けて欲しい	2	0	4	0	3	0	2	1
その他	1	0	0	0	0	1	0	0
合計	41	18	17	10	50	11	20	5

市町村が行っている家庭の省エネ支援事業等で、断熱リフォームの補助を受けたことがありますか？	新築住宅着工数				リフォーム着工数			
	0-5件	6-15件	16-25件	30件以上	0~5件	6~15件	20~50件	100件以上
市町村の補助制度を知っており、使ったこともある	2	0	0	1	1	0	1	1
市町村の補助制度を知っているが、使ったことはない	2	0	0	1	1	2	0	0
国の補助制度を知っており、使ったこともある	8	2	5	2	10	2	3	2
国の補助制度を知っているが、使ったことはない	4	1	0	0	2	1	2	0
補助制度を知らないし、使ったこともない	1	4	0	0	2	1	2	0
わからない	0	0	0	1	1	0	0	0
合計	17	7	5	5	17	6	8	3